21

ちぬの浦いさな寄るなるをちかたは
ひねもす霞む海恋しけれ

歌意　茅渟（ちぬ）（大阪湾の東部）の入海よ。鯨が寄って来るというその沖は、「春になると何時も何時も眠ったままのやうにどんよりと霞んで居る」（『短歌三百講』）。その海が恋しくてたまりません。

掲出歌集　『舞姫』明治39（1906）年1月
初　　出　「明星」明治38年9月号（晶子27歳）

夕されば浜の出島のうたひめの
島田にまじりかはほりぞ飛ぶ

歌意　夕方になると、海辺の出島（現、堺市堺区出島町）の、歌姫たちの島田髷に交じってこうもりが飛んでいます。

掲出歌集　『佐保姫』明治42年5月
初　　出　「明星」明治41年7月号（晶子30歳）

・所 在 地　南海本線湊駅前東口　湊駅前公園広場
　　（堺区出島２丁）
・建　　立　平成 21 年 5 月 27 日　地元商店会有志・他
・書　　北　貞子
・連 絡 先　鎌刈一身（一心堂書店　072-241-4105）
　　堺市堺区出島町２－３－11

南海本線の湊駅周辺は、かつて住吉大社まで巡行する壮大な出島浜鯨まつりが挙行され、また海水浴場、大浜水上飛行場などによって活気溢れる地域であった。歌碑は、湊駅前整備事業を記念し、駅周辺における活性化を図るべく、地元商店会が主体となって建立され、堺市（現在の公園緑地部）に寄贈された。

縦横１ｍの御影石のブルーパールの石に、故郷の海への思いを寄せた歌と海を望む出島町の夕暮れの情景を詠んだ歌が二首刻まれている。